

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「遭難者を救助せよ」

小矢部市立津沢中学校1～3学年生徒
平成21年7月14日実施

【いのちの先生】

梶田 正先生

・元富山県山岳警備隊隊長

【講演の概要】

プレゼンテーションソフトを使用して、映像を見せながら登山の魅力や危険、山岳警備隊に入隊した動機、登山における危機管理などについてのお話をされた。また、「いのちの尊さ」「いのちを大切に」「夢をもて」と、実際に体験したこと、見聞きしたことを踏まえて分かりやすく講演していただいた。

「遭難者を救助せよ」をお聞きして

私が今回の講演会で最も心に残っていることは、いのちは一つしかない大切なものだということです。誰のいのちも失ったら二度と取り戻せないこと、私たちは決して一人で生きているのではないということが最も心に残りました。

私は、これからはもっといのちを意識して、周りのみんなに感謝していかなければと思います。そして、私の家族や友達などたくさんの人にも、同じようにいのちの大切さを話してみようと思います。すばらしい講演をしてくださり、本当にありがとうございました。

「遭難者を救助せよ」をお聞きして

ぼくは、この話の中で警察官としての誇りや使命感をもって仕事をすることの重要さや大切さがとても印象に残りました。

山には、遭難や雪崩、転落など多くの危険があります。しかし、それに立ち向かっていかなければなりません。誇りや使命感は遭難者を生きて連れて帰るという強い気持ちになっているのだなと思いました。気持ちは人を動かす原動力であると改めて感じました。

また、これは生きているからこそできることだと思いました。本当にありがとうございました。

「遭難者を救助せよ」をお聞きして

梶田さんの講演をお聞きして、改めていのちの大切さと重みを知ることができました。また、いのちについて深く考えていらっしやって尊敬しました。梶田さんの仕事はいつも危険との隣り合わせということに対して、真剣に取り組まないと絶対にだめな仕事だと思いました。

最後におっしゃった「今日という日はもう来ない」という言葉を自分の心の中で刻み、一日一日を大切に生きていきたいです